



防災お便りも3回目。今回は「地域で防災に取り組むことがなぜ必要なのか」ということについてお話ししたいと思います。

災害時、まず自分や家族の身を守ることが最優先ということを前提にお読みください

Q.あなたは、もし地震で自宅に閉じ込められた場合、ご近所さんに救出してもらええる環境にありますか？

災害時、自分や家族の力だけでは解決できない問題もあります。その場合、家族の次に身近な隣近所での助け合いが重要になってきます。

知ってもらいたい大切な「ご近所さん」の力

下の表は平成7年（1995年）に起きた阪神・淡路大震災で被災した人が誰に救助されたかというアンケートになります。ほぼ8割が**家族や近所の住民等によって救出された**という結果になりました。

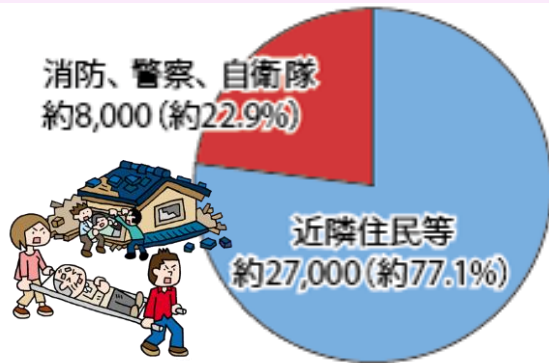


図1 阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数

阪神淡路大震災だけでなく、中越地震（新潟）や神城断層地震（白馬）でも、家族の次に身近な「ご近所さん」の協力により被害が最小限に抑えられたとされています。

大規模災害では消防や警察も被災して、すぐに駆けつけられないこともあるため、

身近な「ご近所さん」で協力して

助け合うことがとても重要です！！



「自分は近所に顔見知りが多くて助けてもらえそうだから大丈夫！」と思った方は、どの時間帯でも（特に平日の日中）「大丈夫」ですか？

ご近所が以下のような場合

- 隣近所に、空き家が多い・平日はお勤めのお宅が多い
→ 気がついてもらえないかもしれない
- 古い建物が多い
→ 同じように救助を求めるご近所さんが多いかもしれない



**不安がある場合、事前に知っておいてもらうことが大切です！
ご近所さんや居住区の自治会に相談してみましょう。**

知っておいてほしい

災害前後で必要となるご近所さんの力！！

<災害発生前>

避難の声かけ



- 知り合いから避難を勧められたり、近所が避難しているのを見ると「逃げなきゃ」という気持ちが生れます。
- 自分で逃げられない**要配慮者**（幼児・高齢者・身障者・療養中の方）への声かけは特に重要です。

<災害発生後>

二次被害※の予防



災害では消防や警察も同じように被災します。隣近所で協力し迅速な救助や二次災害への対応が重要となります。

※最初に発生した災害を元に起きる別の被害のこと

ボランティアの対応



大きな助けとなる災害ボランティアさんの受付・指示対応は地区で行う必要があります。

避難所の運営



避難所の運営は避難している住民で行います。食事や物資の配布、清掃など、仕事は様々です。

自宅・地区の復興



被災後、復興まで長い期間がかかります。様々な課題を地区として話し合い、取り組む事で早期復興につながります。

地域防災がなぜ必要か？

災害時、地域で協力することが被害を最小限に抑えるカギとなります。しかし誰もが十分な防災知識がある訳ではありません。

東日本大震災で3000人の小中学生がほぼ無事だった「釜石の奇跡」は何度も繰り返し行われた防災教育があったからこそ起きた奇跡だと言われています。同じように四ツ屋区も防災力の高い地域を目指して、皆さんに防災を「知る・備える・行動する」ことの重要性を伝える活動を継続していきたく思います。

今日からできる
地域力向上行動！

ご近所さんとあいさつ

自治会行事に協力

地区の危険箇所確認

要配慮者の確認

消防団へ参加

災害対策作成